

平成 23 年度後期「学生による授業評価」
盛岡短期大学部 まとめ

盛岡短期大学部教務委員会

1. はじめに

平成 23 年度後期の授業評価対象科目数は対象科目 134 のうち、実施科目数 123（様式 2：99、様式 3：24）、非実施科目数 11 であった。基本的に様式 2 での調査で、様式 3 はいずれも「卒業研究」あるいは「専門演習」である。実施しなかった科目で理由の明らかなものは、例えば、給食管理・給食管理実習 I は開講期間が 1 年後期から 2 年前期の 2 期にまたがる科目であり、2 年前期終了時に授業評価を行うことになっていること、また英語表現 A-I I・英語表現 A-IV・英語表現 B-II・英語表現 B-II・英語表現 B-IV・英語表現 B-IV・時事英語・ビジネス英語等は、今年度限り担当の場合は授業評価を実施していない取り決めになっていることから、実施しなかったものである。

盛岡短期大学部の学部全体のまとめは以下の方針に基づいて行う。このほか、盛岡短期大学部の FD 活動の一環として実施した付加質問についても言及する。

2. 盛岡短期大学部・学部全体まとめのためのデータ分析の方針

学生による授業評価調査は、教科毎に経時的に比較するにも評価する母集団自体が毎年違うので、同じ方法で授業したとしても評価が異なる。そのため、単純な経年変化をみたとしても、授業改善がなされたかどうかの判断は難しい。また、統一の基準で判断する方法論もしくは外的基準すら現在のところ持ち合わせていないので、絶対的評価も困難である。そこで、学部全体のまとめについて、現状のデータに基づいて授業評価結果を分析するとすれば、①同一学科専攻内の必修・選択科目間での比較、②学科・専攻ごとの相対的な比較、等が妥当であり、個別の科目に対しては、各教員がこのまとめ（例えば自分の担当科目が属するカテゴリの平均と比較してどうか、など）と個別に相対比較していただくのが現状における有効な利用方法だろう。以上の方針のもとで、基礎的なデータ集計と分析を行い、調査項目ごとに簡単な考察を行った。評価項目 13 については、全体の質問項目との相関分析も行っている。

3. 質問項目ごとの分析

3.1 質問項目 1【授業の前提条件】

・この授業にはもともと強い関心がありましたか(6 段階:1 そう思わない、6 そう思う)

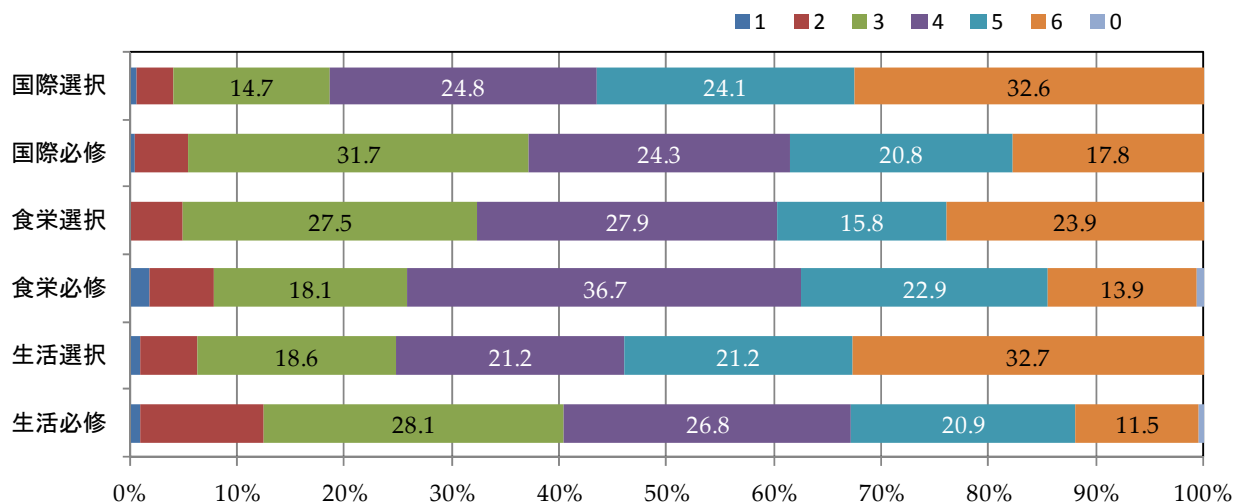


図 1 この授業にはもともと強い関心がありましたか

図 1 に履修前の授業への関心度を示す。どの学科・専攻とも「6：そう思う」の比率は選択科目の方に高い。ただし、5 以上もしくは 4 以上の比率でみると、生活科学専攻および国際文化学科は選択科目のほうで比率が高いのに比べ、食物栄養学専攻は明確な差がなくなる。この理由は、食物栄養学の場合、選択科目といえども資格必修である科目が多いためである。

3.2 質問項目 2【授業の前提条件】

・この授業を履修した時期・学年は適切でしたか(5 段階: 1 遅すぎた、5 早すぎた)

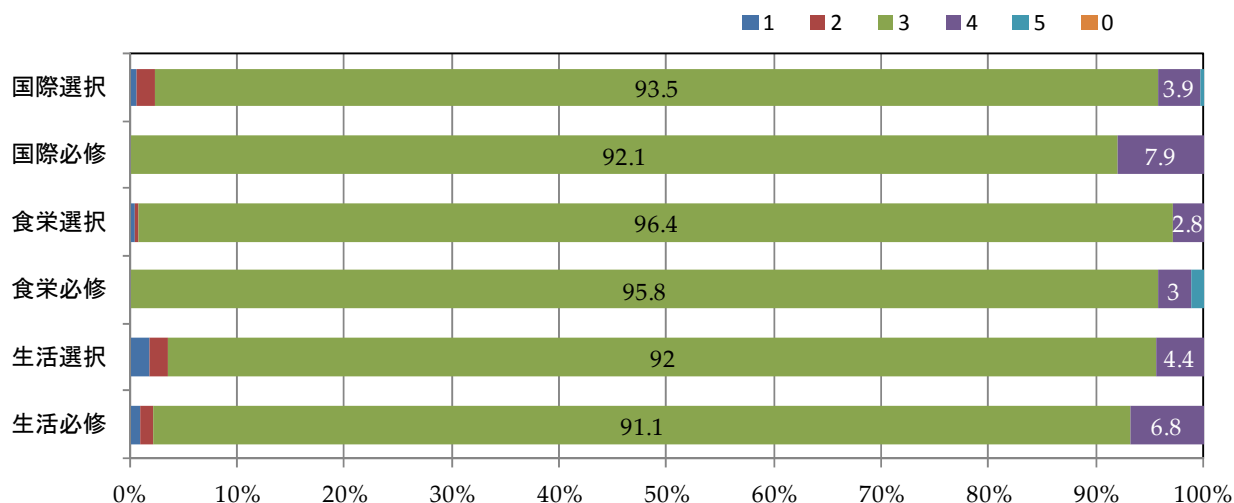


図 2 この授業を履修した時期・学年は適切でしたか

この質問項目に関しては、学科・専攻および必修・選択の区別なく 90%以上が「3」（適切）を選択しており、履修時期はほぼ妥当と考えているようである。

3.3 質問項目 3【授業の前提条件】

・この授業の受講数はあなたにとって適切でしたか(5 段階: 1 少なすぎた、5 多すぎた)

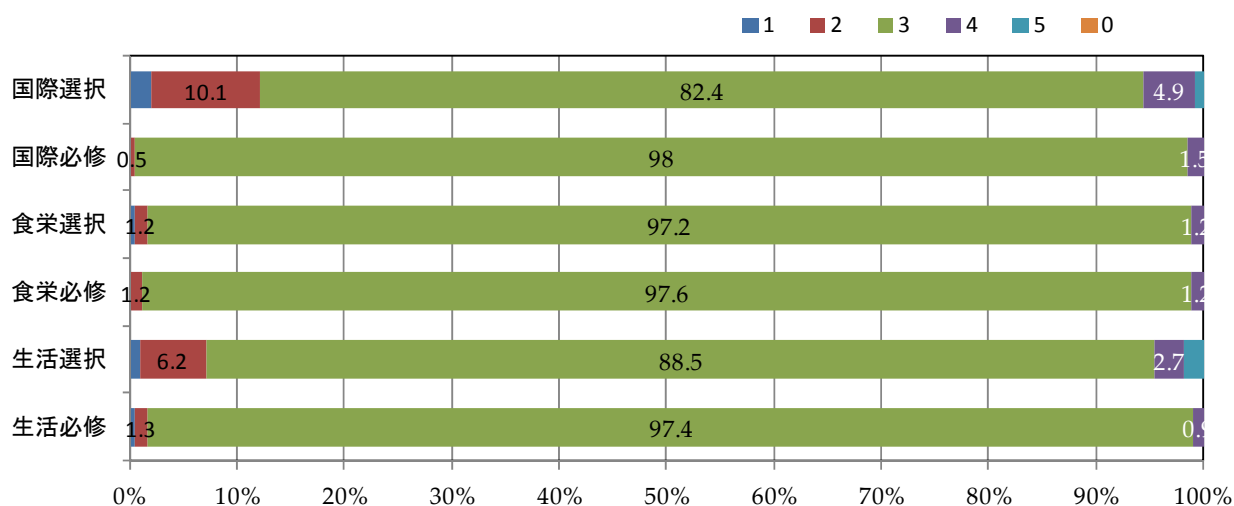


図 3 この授業の受講者数はあなたにとって適切でしたか

結果をみると、学科・専攻および必修・選択の区別なく 90%以上が「3」（適切）を選択しているが、生活選択科目（2 の比率：6.2%）および国際選択科目（2 の比率：10.1%）がやや多い傾向にある。少人数教育を実践できている証拠であるが、学生からは逆に少なすぎると受け取られている科目もあることがわかる。

3.4 質問項目 4【学生自身の取り組み】

・この授業に真剣な態度で参加できましたか(6段階:1 そう思わない、6 そう思う)

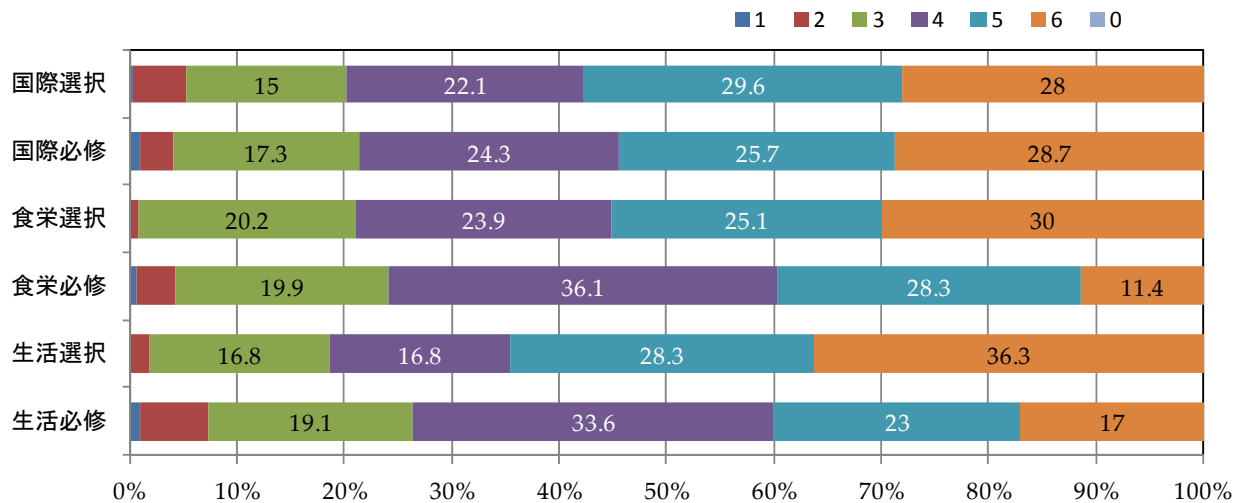


図 4 この授業に真剣な態度で参加できましたか

質問 4 の結果をみると、生活科学専攻および食物栄養学専攻で、必修よりも選択のほうで真剣な態度で参加している率が多い傾向にある。国際文化学科は必修・選択間で大きな差はなかった。

3.5 質問項目 5【学生自身の取り組み】

・この授業の予習・復習や課題等に積極的に取り組みましたか(6段階:1 そう思わない、6 そう思う)

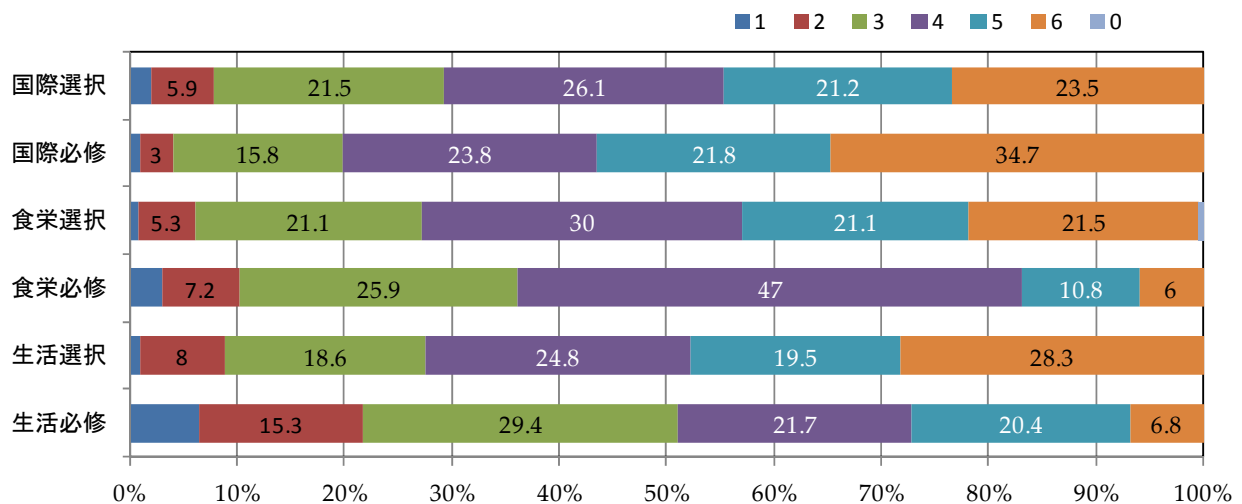


図 5 この授業の予習・復習や課題等に積極的に取り組みましたか

質問 5 の結果をみてみると、生活科学科両専攻は、必修はそれほど積極的ではなく、選択では積極的な状況が見て取れるが、国際では必修のほうで積極的であることがわかる。これは科目の性質（英語教育）と課題の出し方を反映した結果であると考えられる。

3.6 質問項目 6【授業内容の量・速度・難易度】

・授業内容の量はあなたにとってどうでしたか(5段階:1 少ない、5 多い)

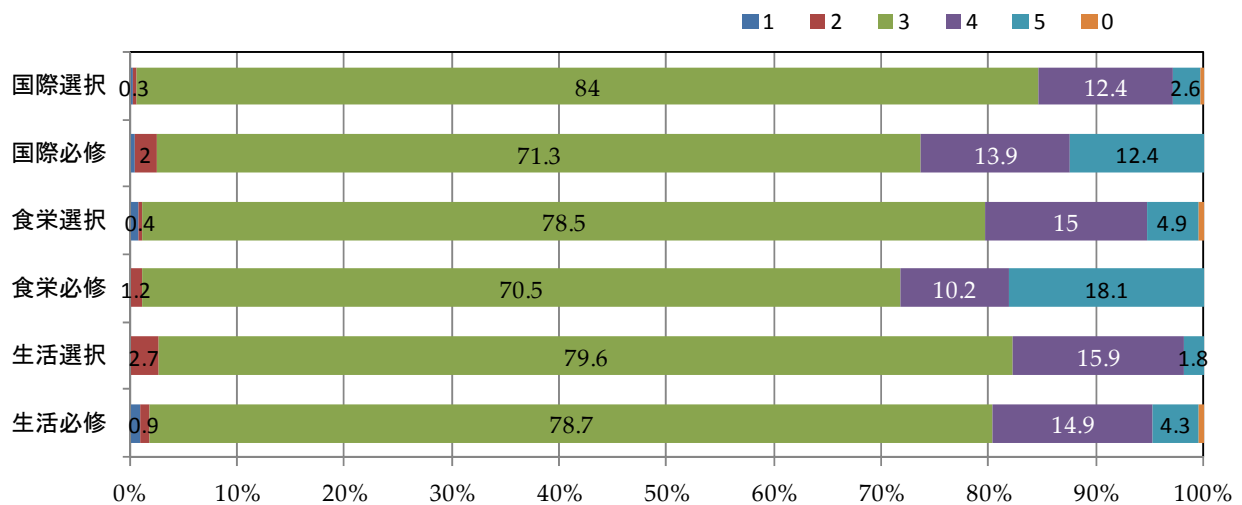


図 6 授業内容の量はあなたにとってどうでしたか

授業内容の量について、おおよそ適当(3)と考えている学生が学科・専攻、必修・選択を問わず70%以上おり、また少ないと感じている学生はほぼいないのに対し、食栄必修はやや多い、多いと感じている率がやや高い。

3.7 質問項目 7【授業内容の量・速度・難易度】

・授業を進める速度はあなたにとってどうでしたか(5段階:1 遅い、5 速い)

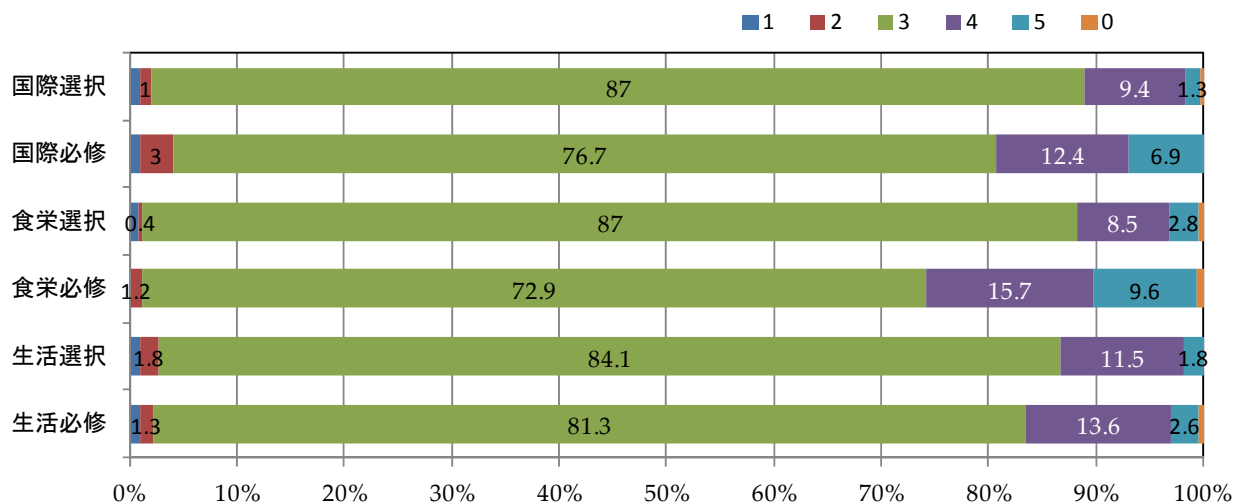


図 7 授業を進める速度はあなたにとってどうでしたか

質問項目 6 と 7 の相関分析を行うと、生活必修 : 0.712、生活選択 : 0.538、食栄必修 : 0.788、食栄選択 : 0.681、国際必修 : 0.726、国際選択 : 0.532 となった。生活必修、食栄必修・選択、国際必修は、比較的高い相関があり、授業内容と速度は同じような感覚で捉えている学生が多い。その意味では、約 70~80% は量・速度ともにちょうどよいと考えていることがわかる。

3.8 質問項目 8【授業内容の量・速度・難易度】

・授業の難易度はあなたにとってどうでしたか(5段階:1 易しい、5 難しい)

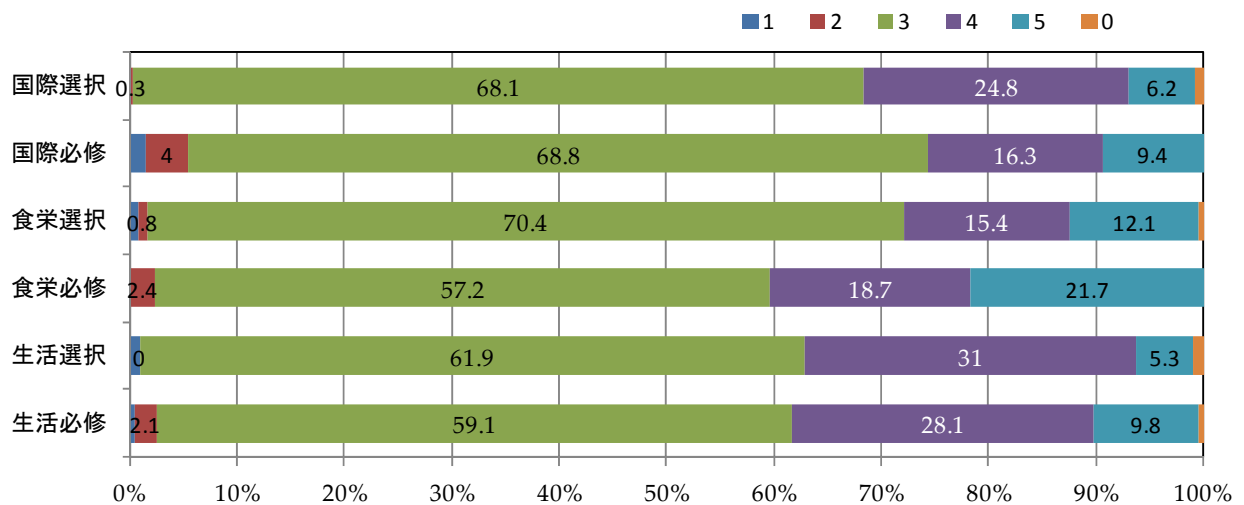


図 8 授業の難易度はあなたにとってどうでしたか

どのカテゴリも「3」評価（ふつう）という評価が多いが、「4」評価（やや難しい）、「5」評価（難しい）も少なくない。特に生活必修、生活選択、食栄必修では「4」「5」評価が40%弱に昇る。

3.9 質問項目 9【授業技術上の改善優先項目】

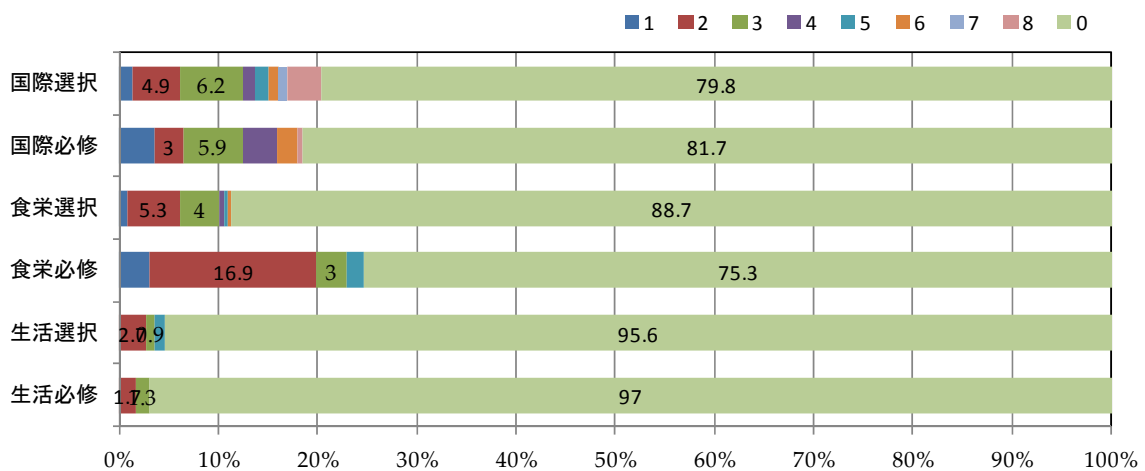


図 9-1 第 1 位

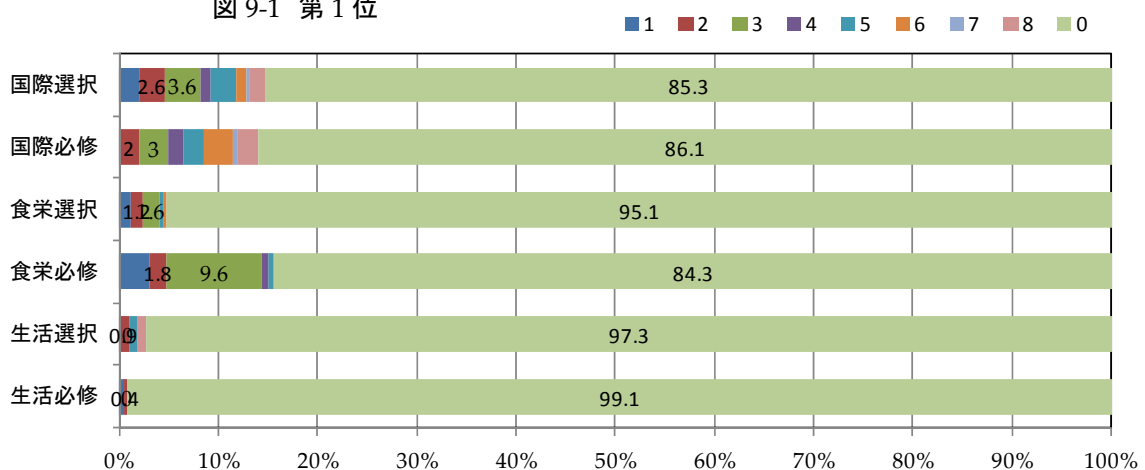


図 9-2 第 2 位

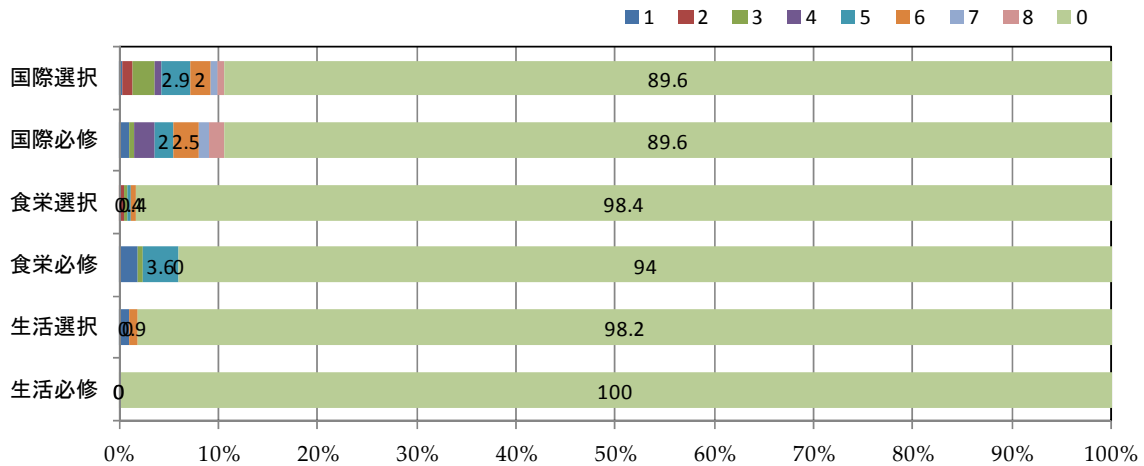


図 9-3 第 3 位

1:教員の話し方、2:教材(視聴覚教材を含む)や板書の使い方、3:授業内容の構成・整理、4:発言や質問の機会、5:教科書や配布資料と授業内容の関係、6:課題やレポートと授業内容の関係、7:シラバスと授業内容の関係、8:教室等の環境・設備、0:無回答

授業技術上の改善項目は、食物栄養学専攻および国際文化学科で比較的指摘がある。国際必修・選択で多いのは、3:「授業内容の構成・整理」、食物必修で多いのは2:「教材(視聴覚教材を含む)や板書の使い方」である。

3.10 質問項目 10【総合評価】

・教員の熱意をどの程度感じましたか(6段階:1 感じなかった、6 強く感じた)

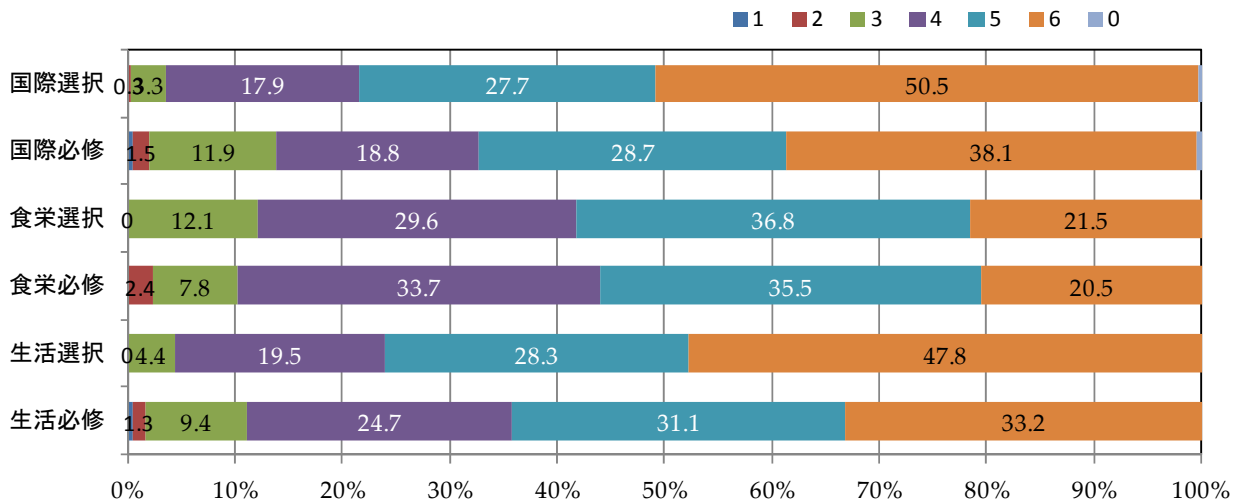


図 10 教員の熱意をどの程度感じましたか

国際選択では「強く感じた」が50%を超えており、ほかの学科専攻のカテゴリも比較的高い。感じなかった、あまり感じなかった率はほぼ1ケタ台であり、温度差はあるものの教員の熱意は伝わっていたようである。

3.11 質問項目 11【総合評価】

・あなたはこの授業の到達目標を達成できましたか(6段階:1できなかった、6できた)

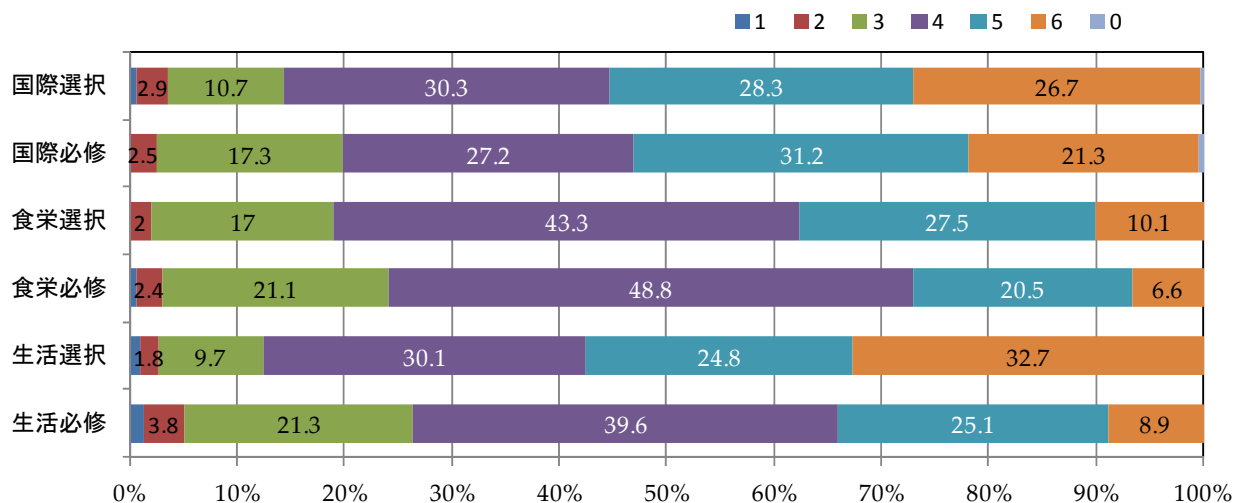


図 11 あなたはこの授業の到達目標を達成できましたか

生活選択が「6：達成できた」割合が 32.7%と高い一方、生活必修は 8.9%と低い。食栄は必修・選択とも 10%台とこれも低い状況にある。国際は必修・選択とも「6：達成できた」が 20%台になっている。3 以下はどのカテゴリも 10~20%台は存在している。

3.12 質問項目 12【総合評価】

・あなたはこの授業で得たものは多かったと思いますか(6段階:1 そう思わない、6 そう思う)

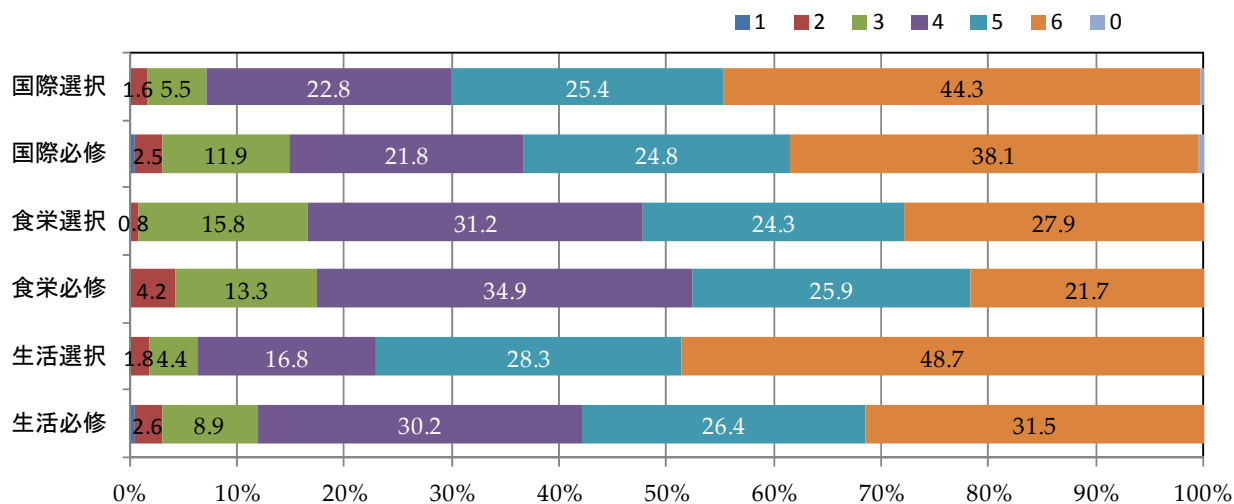


図 12 あなたはこの授業で得たものは多かったと思いますか

学科・専攻ごとに得たものが多いか否かを聞いた質問であるが、必修よりも選択のほうで高いスコアを得ている傾向にある。質問項目 1 との相関をみると、生活選択が 0.589、食栄選択が 0.606 で比較的高く、国際選択は 0.451 とやや低くなった。

3.13 質問項目 13【総合評価】

・総合的に考えてこの授業に満足できましたか(6段階:1 不満である、6 満足できた)

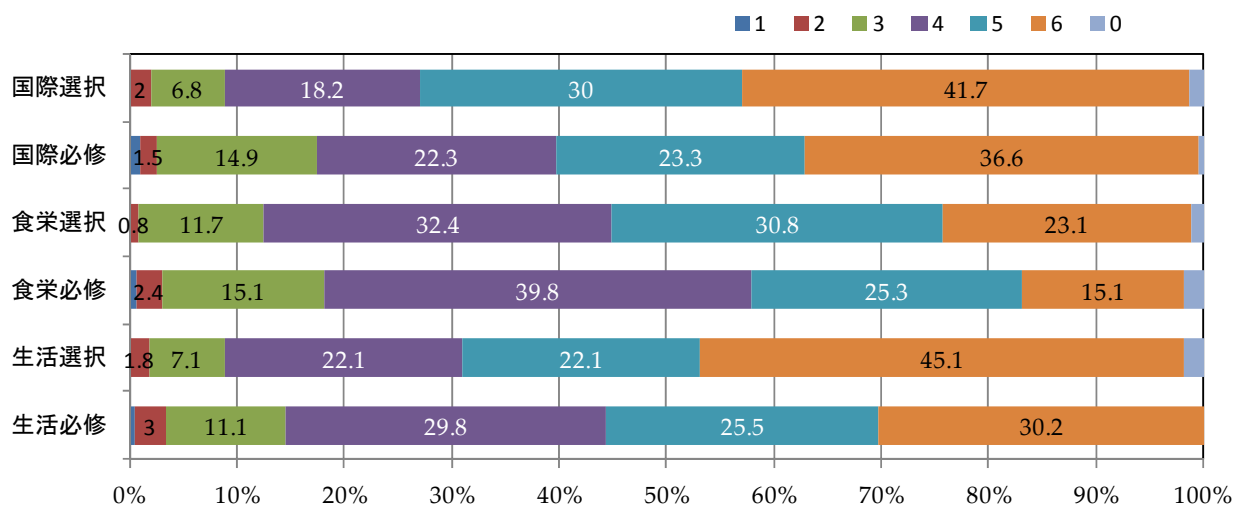


図 13 総合的に考えてこの授業に満足できましたか

表 1 総合評価(項目 13)と各項目との相関係数

	授業 出欠	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑩	⑪	⑫
生活必修	-0.0159	0.414	0.055	0.2515	0.5358	0.2269	-0.0697	-0.0412	-0.2921	0.5973	0.7105	0.8629
生活選択	-0.0533	0.4372	-0.1959	-0.211	0.4121	0.3121	-0.1038	-0.0494	-0.1283	0.411	0.5736	0.6887
食栄必修	-0.1062	0.4885	-0.1756	0.0331	0.4538	0.3218	-0.1735	-0.1591	-0.1767	0.5711	0.5891	0.722
食栄選択	-0.0759	0.5157	-0.0556	-0.0695	0.4682	0.4047	-0.0726	-0.0133	-0.1632	0.5644	0.6741	0.8077
国際必修	-0.1788	0.5761	-0.1897	0.072	0.563	0.4308	-0.2443	-0.1517	-0.1876	0.7298	0.736	0.853
国際選択	-0.0298	0.4241	0.0283	0.0021	0.5034	0.443	-0.1879	-0.1687	-0.2451	0.5001	0.6958	0.7916

黄色 p<0.05 橙色 p<0.01

全体的に 80%以上が「4」以上の評価をしており、おおむね満足度は高いと思われる。また、必修・選択の別でみると、どの学科専攻とも、選択科目のほうで評価が高い。

表 1 は各評価項目（質問項目 9 を除く）と評価項目 13（総合評価）との相関分析をした結果である。黄色は p<0.05、橙色は p<0.01 で有意であることを示す。

結果を見ると、評価項目 2（履修時期）、3（受講者数）、6（授業量）、7（授業速度）は相関が高いとはいえず、8（授業難易度）も統計的に優位であったとしても、相関が高いとはいえない。一方、評価項目 1（強い関心）と評価項目 4、5（学生自身の取り組み）、評価項目 10～12（総合評価）と評価項目 13（総合的な評価）との相関は高い。

授業前の関心に関して、AP（アドミッションポリシー）等の周知等でミスマッチのない学生を確保することが重要であり、授業に関しては、如何に真剣な態度で授業に参加させるか、予習・復習や課題に積極的に取り組む環境を整えるかが、学生自身の満足度を高めるためにも重要であろう。

4.盛岡短期大学部 FD 活動の一環として実施した付加質問について

平成 23 年度後期も、前期および平成 22 年度に引き続き、盛岡短期大学部 FD 活動の一環として、専任教員は前年度の改善点に関わる付加質問を各自で設け、学生から直接評価を受ける取り組みを実施している。

4.1 付加質問の実施状況

授業評価実施数は専任・非常勤含めて全 91 科目あるが、そのうち専任教員が担当した科目は 57 科目である。付加質問を設定した科目は 57 科目中 39 科目であり、全体の 68.4%を占めている。この比率は 1 年前の実施時期（平成 22 年度後期 35 科目 56%）と比べると大幅に改善している。教員構成変更に伴い、今年度限りの科目担当であったり一部科目を非常勤対応したりしたなどの影響で、授業評価実施科目数が 6 科目ほど減少しているが（昨年度は専任教員担当科目数 63 科目）、付加質問を設定している科目数が増加しているということは、この取り組みが定着していたものであると評価できよう。

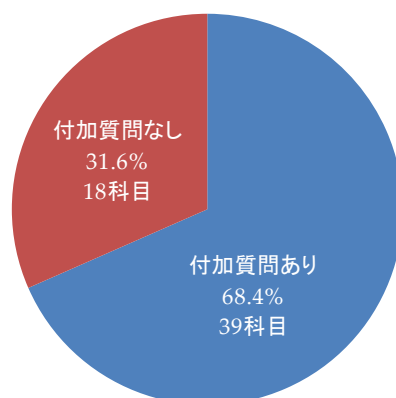


図 14 付加質問の実施状況

4.2 付加質問の内容

付加質問の内容は、授業方法に関する質問 6、授業の工夫に対する質問 6、教科書に関する質問 5、課外の取り組みに関する質問 5 などがあった。おのおの質問に対して求める回答は 2 択、3 択、6 択（等間隔尺度）などであり、質問者が質問に対する学生の回答を把握しやすいように工夫していた。付加質問とその回答欄の例を表 2 に示す。今後の参考にしていただきたい。

4.3 付加質問に関する課題と今後の取り組み

科目もしくは教員によっては実施していないものが 18 科目ある。これらの科目は、付加質問する必要が全くないか、科目の性質上する必要がないか、失念していたのか、その詳細は不明である。学生による授業評価質問内容は、当初制定時から 5 年以上は経過していること、同じ質問内容を短期間に履修科目数（学生によっては 10 科目程度）分、回答することへの慢心などを考慮すると、付加質問の実施自体、こうした問題を回避できる有効な手段のひとつになっているものと考えられる。平成 24 年度も引き続き実施する予定である。

表 2 付加質問と回答欄の例

付加質問の内容	回答欄
質問カードにより問題意識を深められたか	①No ⑥Yes
毎回のコメントカードですが、今後も続けた方がよいでしょうか。なくしてもよいでしょうか。	①なくしたほうがいい②このまま続けた方がいい③毎回やらなくてもいい④どちらでもいい⑤その他
パワーポイントだと教室が暗くなってしまう。教室を明るくして板書にするのはどう思いますか。	①PPT がいい②板書がいい③どちらもいや④どちらでもいい⑤その他
科目の配置時期(2年後期)は適切だったか	①適切でない⑥適切だった
科目の配当分野は適切だったか	①適切でない⑥適切だった
自習(予復習)に使用しやすい教科書だったか	①しにくい⑥しやすい
教科書はどうでしたか	①否⑥肯
配布物を冊子にしたことについて	①否⑥肯
教科書の有無について	①なくてよい⑥あったほうがよい
使用している実験器具の名称	①わからない⑥わかる
内容説明の分量	①少ない②③丁度よい④⑤多い⑥分からない
教科書が必要か	①必要なし③どちらでもよい⑥必要
〇〇の難易度について	①とても易しい②かなり易しい③やや易しい④やや難しい⑤かなり難しい⑥とても難しい
〇〇見学から学ぶものはありましたか	①そう思わない⑥そう思う
ものづくりへの関心はありますか	①そう思わない⑥そう思う
教員の説明はわかりやすいですか	①わかりにくい⑥わかりやすい
レポートへのコメントはあなたの理解に役立ちましたか	①役に立たない⑥役に立つ
事例紹介は役に立ちましたか	①役に立たない⑥役に立った
あなたは〇〇に関心・興味がありますか	①ない⑥ある
この授業に関連する参考文献を何冊読みましたか	①0冊②1冊③2冊④3冊⑤4冊⑥5冊以上
各授業の終わりに、まとめをしましたか	①していなかった⑥していた
本か論文を何冊読みましたか	①1冊以下②2冊③3冊④4冊⑤5冊⑥6冊以上
〇〇の活用は、あなたの授業理解に役立ちましたか	①役に立たなかった⑥役に立った
授業は発言しやすい雰囲気でしたか	①そうでない②あまりそうでない③わりとそう④そう
教科書(テキスト)の課題の難易度は難しかったですか	①難⑥易
〇〇〇の回数はどうでしたか	①もっと少ない方がいい②ちょうどいい③もっと多い方がいい
講義に関する本を読んだか	①1冊以下②2冊以下③3冊④4冊⑤5冊⑥6冊以上
最新の教材を用いたことは、理解の一助になりましたか	①ならなかった⑥なった
授業テーマは難しかったですか	①そう思わない⑥そう思う
調査期間の長さは適切でしたか	①そう思わない⑥そう思う
夏休みから前倒しで授業を行うことも考えています。どちらがよいですか	①前倒しがいい②10月から③どちらでもいい④その他
もし今後も盛岡にいたら〇〇の活動に関与していきたいですか	①関わっていききたい②少し関わっていききたい③あまり関わりたくない④関わりたくない⑤まだ未定⑥その他